

呑川水系のホタル

ロンドンオリンピックの熱戦が続きますね。ついついTVに夢中になってしまいます。

さて、「川」と言えば、いつかは目指したいのが「ホタル」・・・どの「川」でも、「蛍の舞う川」にあこがれ、それを目指している方々は多くいます。でも、「都市中小河川」、とりわけ「呑川」でそれを実現しようとする「夢」にさえ描くことも出来ません。

今年も私は、ホタルの舞う川を見てきました。

「田んぼ」のホタルは、そのほとんどが「ヘイケボタル」で可愛いものです。

ときには「クロマドボタル」のような「陸生ホタル」も見られます。

でも「川」のホタルは「ゲンジボタル」・・・その力強く流れる光を見ると、胸に響くものがあり、多くの人々が惹かれるのがよく判ります。

しかし、自然豊かな場所で「乱舞」していたホタルも、今はどこも「乱舞」というほどでは無くなっているようです。今年、私が見た2カ所もそうでした。



ところが、都市部でホタルの生息に尽力する市民のいるところは、ずいぶん増え、それなりに成功を収めているようで、反対に、昔ながらの自然環境があるところは減っているというのは、どうしてなのかと落差を感じてしまいます。

そして、この大田区でも、いくつかの場所で「ホタル」の試みが行われていて、それらの動きに私たちがどう関わるか、迷いもあります。

「呑川水系」では、「洗足流れ」が有名で、昨年7月にこの「呑川レポート」で呼びかけて「観察会」を行いました。数は少ないものの、「ヘイケボタル」の光が見られ、「こんな都市部で・・・」と、感動したものです。

「洗足流れ」で、ホタルを実現した方の努力には敬意を払わざるを得ません。

「呑川水系」では、この「洗足流れ」の他に、「洗足池」でもホタルを育てようとする動きがあります。

「洗足池」では毎年「ホタルのタベ」が開かれていて、大勢の方が押しかけます。でもそれは千葉の方から持ってきて、逃げないようにカゴの中に入れ、それを見学します。

それとは異なり、洗足池にホタルを「自生」させようとする試みも進んでいます。

すでに「田んぼ」と「ホタル池」は出来ていて、ホタルの幼虫の子育ては「大森六中」の生徒たちが、「田んぼ」は「赤松小」「清水窪小」の子どもたちが作業をします。

なぜ「ホタル」に「田んぼ」が関係あるかというと、稲作の栽培サイクルと「ヘイケボタル」の生育サイクルが、とてもうまく一致するからです。ですから、「ヘイケボタル」は「田んぼ」のある所で、よく見られるのです。

今年も「おおたく環境探検隊」が、「田んぼ」の「田植え作業」のサポートを行いました(2012/6/14)。

紺色の帽子的清水窪小学校の5年生たちが、苗を手を持ってアゼに並びます。

いよいよ田植えの始まります。



赤い帽子の子どもたちは、赤松小学校の5年生です。
竹の棒に等間隔にマークが付いていて、その場所に、こわごわ苗を植えていきます。



「苗」は筆を持つようにつかみますが、苗の根を傷めないように、根を指先で包み込むようにします。
土に植えるときは、根を土に押し込みがちですが、やはり根を傷めないように、指先を土に差し込んで穴を空け、そこに苗の根を入れるようにするのです。
苗を差し込んだ後は、倒れないように周りの土を寄せて、補強します。
ところが…実際には簡単でなく、こんな風にすぐに倒れてしまうこともしばしばです。
あわてて、苗を起こし、また根元の土を補強してあげます。
こんな事はしばしばですが、なかなかきちんと植えられない子も大勢います。

そして、なんとかきれいに田植えが終わりました。でも、この田んぼ…ほとんど陽が当たっていませんね。

実は洗足池の「田んぼ」はこんな環境なのです。田んぼに隣接した樹林地の木々が陽当たりを妨げているのです。稲作は「陽当たり」が決定的に重要ですので、自分の田んぼを日陰にする樹木は、5m以内なら他人の樹木でも伐採しても良いことになっています。でも、ここは公園の実験田んぼ、農家の本来持つ権利がある訳ではありません。

さて、初めての経験に子どもたちは楽しかったようです。ちょっと、子どもたちの様子を見てみましょう…



土のぬるぬるした感触…深みにはまる歩きにくさ…ひやっとした肌触り…非日常の感覚に、楽しくなっています。



とりわけ誰もが苦労したのは、泥に足を取られて、どうやって歩いたらいいか判らない、どうしても抜け出せない…などの思わぬ手ごわさでした。とても良い経験です。

この女の子が田植えしていると、やんやの声が掛かります。その視線の先を見ると…

男の子たちが、ああでもない、こうでもないとお節介を焼いています。

思春期前期の、そのまた入り口に立っているようです。人生の中でも、最高に楽しい天真らんまんな時期ですね。

時々ですが、「呑川レポート」の写真に対するこんな質問があります。

「どうして、レポートにストーリー性があり、そのストーリーにあった写真が撮れているの…？」



私は現場に行ったとき、しばらく様子を見ています。

そして、その様子の中から、その時の撮影テーマを決めてカメラを構えます。

今回の「田植え」では、

「田植え作業の中で、苗がすぐ倒れるなど、うまくいかない点を浮き彫りにしよう」

「ぬかるみにはまるなど、土に対する新感触や、作業の楽しそうな

表情を撮ろう」などと決めたのです。同じ田植えでも、毎回中心テーマを変えています。

テーマさえ決まれば、あとは事態の進行に合わせて撮っていきます。

さて「田植え」に合わせて水が張られると、いよいよホタルの幼虫が土にもぐり、「さなぎ」になる時期が近づきます。



「田植え」の日、小学生たちが帰ったあと、なにやら大勢の子どもたちが続々とやって来ました。

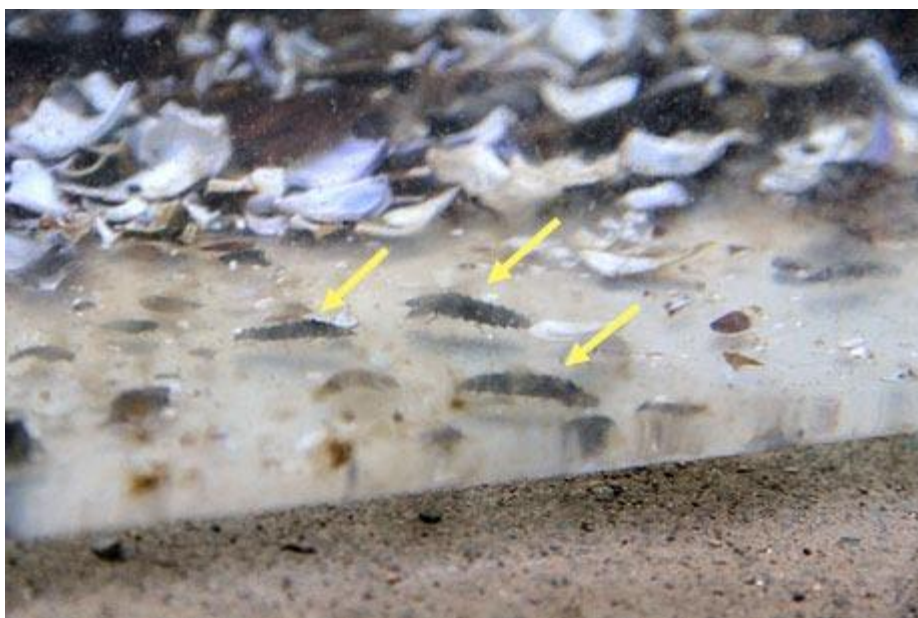
「大森6中」の「農援隊」の生徒たちです。「農援隊」は、農業や環境保全に関心を持つ生徒たちの集まりで、60名を超える子どもたちが活動をしているそうです。



「大森6中」の子どもたちは、ヘイケボタルの「幼虫」を昨年来から育てて来ました。



「ヘイケボタル」の幼虫が見えるでしょうか・・・エサは「サカマキガイ」なども与えたようですが、アサリを砕いたものがたくさん見えています。



黄色の矢印の先が、ヘイケボタルの「幼虫」です。わずか数 mm だったのが、1cm を超えるまでに成長しました。前回は、210 匹を育てましたが、多くの幼虫が死んでしまい、悔しい思いをしたそうです。そして今回は 400 匹・・・昨年 10 月から細心の注意を払って育て、ほとんどを死なずに育て上げるのに成功したそうです。



幼虫を飼育箱から白いバット(vat)に移し、スポイトで幼虫だけを広い、小分けしていきます。



「農援隊」の子どもたちは、幼虫を受け取って、これからの放流にワクワクしています。



ここが「田んぼ」の隣りにある「ホタル池」です。この「ホタル池」も「農援隊」の生徒たちが、「ホタルが自生する環境づくり」のため、冬の寒いさなか土いじり？をして「造園作業」に汗を流したのです。ホタルが「さなぎ」時代を過ごすアゼや土盛りをしたところには、「水生植物」を植えました。こうして、子どもたちにとって、いとおいしい「ホタル池」が出来上がったのです。



いよいよその「ホタル池」に、幼虫の「放流」です。無事に「成虫」のホタルになるまで育てて欲しいと、心から願います。水面には、「絶滅危惧種」の黄色い「アサザ」が見えています。「幼虫」たちのエサとなるのは一般的には「モノアラガイ」のようですが、洗足池の「菖蒲園」には「サカマキガイ」が沢山います。この「サカマキガイ」をこのホタル池に放流したそうです。

安易に「モノアラガイ」を他所から移入することなく、この地の「生態系」を乱さないやり方は賞賛すべき事だと思います。(と言っても、サカマキガイは外来種ですが・・・)

そして、今の段階では、「さなぎ」になる直前まで「飼育箱」で育てるのは大切なことです。

早い段階で「放流」すれば、ホタルの幼虫も、そのエサとなる巻き貝も「洗足池」に沢山いるコサギやカワウ、ザリガニや、魚たちの餌食となってしまいうでしょう。

ちょうど「田植え」の時期は、梅雨の時期とも重なり、土も軟らかく湿っていて、すぐにでも「土」にもぐって「さなぎ」になるときです。「土」にさえ潜れば、まずは外敵から守られ安心です。

さて、放流したヘイケボタルは、「さなぎ」になり、やがて「成虫」になってくれたでしょうか・・・？

昨年は、わずか1匹がふわっと飛んだのを確認しただけだったそうです。

大森6中の「自然科学部」や「農援隊」の子どもたちの努力に報いるために私に出来ることはただ一つ、「洗足池」に通って、ヘイケボタルの「成虫」を見つけ出し、その様子を広く知らせてあげることだけです。



さて、どこにいるかと探し回りましたが、なかなか見つけられません。

今年は駄目だったかとあきらめ掛けました。

でも、目をこらしてよく見ると、小さく弱々しい光の点が見つかりました。

「ゲンジボタル」の、強くゆっくりとした光の明滅と違い、「チカチカチカ」とせわしなく明滅します。

これこそ「ヘイケボタル」です。

「大森6中」の子どもたちの努力は、ちゃんと実っていたのです。

光が見えて、あわててカメラのシャッターを切った時には、もう光るのを止めて、しばらくは暗いまま・・・撮影するのはなかなか手強いですね。

暗くてよく見えないので、飛んでいってしまい、もうそこにはいないこともしばしばです。

もうしばらく撮影を続け、うまく撮れるようであれば、ホタルの様子をまとめて、第2回目のレポートにしようと思います。なるべく急ぎますが・・・ヘイケボタルは1ヶ月くらい、場合によっては2ヶ月近くも飛んでくれると言われて期待しています。「香川水系」のホタル・・・皆さんも見てください。

(当面の日程)

- 2012/8/1 (水) 西蒲田地区の呑川犬走りに付着したヘドロの臭気調査
(大田区都市基盤管理課) 10時 西蒲田太平橋児童公園集合
- 2012/8/8 (水) 呑川ネット定例会 10:00 生活センター
- 2012/8/10 (金) 久原小・夏ドキ 六郷用水 (おおたく環境探検隊)
- 2012/8/10 (金) - 8/12 (日) 第33回 大田平和のための戦争資料展
大田区民プラザ (下丸子駅から3分) 9:00-18:00
大坪庄吾前代表のライフワークです。
- 2012/8/18 (土) 呑川の会・定例会 13:30- こらぼ大森ミーティングルーム
- 2012/8/29 (水) 雪小ワクワク教室 呑川学習&ウォーク
- 2012/9/13 (木) 呑川散策ガイド作成委員会

*連続5回の「呑川講座」が予定されています。

(9/27 10/6 10/11 10/20 10/25)

木曜夜ですが、土曜の開催日は、呑川ウォーキングが予定され、上流から
河口まで歩いて楽しめます。(詳しくは近日中)

-----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
